

会長講演

座長：井手 久満（順天堂大学）

女性泌尿器科漢方療法と、その中での 清心蓮子飲の位置付け

女性医療クリニック LUNA グループ

関口 由紀

（はじめに）

清心蓮子飲、炎症の少ない尿路不定愁訴に用いる処方と認識されているが、構成生薬をみると人參・茯苓・甘草から四君子湯の変法とみることでもでき、蓮肉・黄耆から強壯作用もあるため、八味丸などの補腎剤を胃腸障害等から飲みきれない虚症の患者の抗加齢方剤とみることでもある。今回この清心蓮子飲が著効する患者の特徴を検討した。

（患者と方法）

女性医療クリニックLUNAを、2024年1月～6月の6か月に受診した患者のうち、清心蓮子飲を処方した後に、症状改善度が70%以上と答えた患者を抽出し、その投与前の自覚症状を検討した。

（結果）

患者数は、9名であった。平均年齢は、61歳（最大値66歳、最小値61歳）であった。泌尿器関症状は、頻尿7例・残尿感3例・排尿困難・排尿痛・尿道むずむず感2例・膀胱炎になりやすい・たらたら尿もれする（各1例）であった。全身症状としては、めまい（3例）・不眠（2例）・頭痛・歯痛・関節痛・動悸・抑うつ・イライラ（各1例）であった。

（考察）

清心蓮子飲が著効する女性は、60歳代で、頻尿にくわえ尿路の非定型的愁訴があり、さらに更年期障害酷似の自律神経失調症状や精神神経症状を訴える可能性が示唆された。

（まとめ）

清心蓮子飲は、ポスト更年期の女性の抗加齢に対して重要な方剤であると考えられる。